

## バイキング・エデン乗船 (5) エンターテイメント

2025.2.28 池田良穂

クルーズの楽しみ方は、人それぞれ。好きなように楽しむことができるのも、クルーズという旅行のよいところです。「As you like」や「お気に召すまま」といった言葉で、その自由な楽しみ方は表現されています。

夕食後には、20 時 30 分から 40～50 分のショーが、2 階の最前部のザ・スター・シアターで開かれていました。このシアターの座席は約 450 席で旅客定員の半分ほどです。満船の場合には 2 回公演にしているのかもしれませんが、乗船時の乗客は 100 名ほどでしたので各夜共に 1 回だけの公演でした。舞台は小さいので、大型クルーズ客船のような大掛かりのショーは行われず、1～2 人の歌手のコンサートや、多くても 4～6 人ほどの演者でのミュージカルやバンド演奏が行われていました。

バイキング・クルーズでは教養講演を大事にしているとのこと、今回のクルーズでは沖縄の伝統や音楽とバイキングの歴史、宇宙に関する 2 人の専門家による講演が 4 回ずつ行われていました。バイキングの歴史については、沖縄の歴史と文化について講演した同じ講師が行いましたが、スライドの説明を読むだけのものでやや迫力不足でした。同じ講師の、専門の沖縄に関する講演の方は素晴らしかったのに、ちょっと残念でした。宇宙開発と宇宙旅行に関する講演は、結構面白くはありましたが、やや宣伝臭くて 2 回聞いて参加をやめました。

また、寄港日の前日には、ポートトークと呼ばれる寄港地を紹介する講演もありましたが、こちらは日系ブラジル人のアシスタント・クルーズディレクターと日本人女性アシスタントが日本語で行いましたが、内容はガイドブックにあるような説明で、伝統・文化・歴史についての深い説明ではありませんでした。

さて、船内の各所で生演奏が行われていました。中でも充実していたのがアトリウムの階段下での「ムンク・モーメント」と題うったクラシカルデュオの生演奏でした。音楽に合わせて、踊り場の大きな画面にノルウェーの有名画家ムンクの絵画が映し出されていました。生演奏は、アトリウム、エクスプローラーズ・ラウンジ、プールサイド、ウィンターガーデン、1872 でも行われていました。

またラウンジ 1872 では社交ダンスやディスコ、プールサイドでのダンス・パーティーも行われており、乗客もたくさん楽しんでいました。

船内ツアーも数回行われましたが、参加できるのは先着 20 名とのことで、筆者は毎回外れてしまいました。こうしたツアーでは部屋に置いてあるイヤホン付きのレシーバーが活躍していました。



ザ・スター・シアター



専属歌手による歌が披露されました。





沖縄の歴史と文化に関する講演会です。三線や沖縄の歌も交えた講演でした。



船長主催のカクテルパーティでの船長の挨拶です。

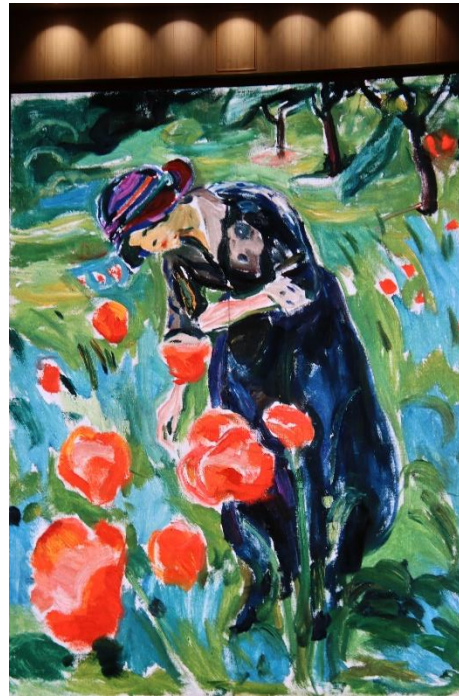


船長カクテルパーティでは本船主要スタッフが登壇して、1人1人が短い挨拶をしました。





アトリウムでの「ムンク・モーメント」と題する演奏会が毎日開催され、階段の踊り場にはムンクの絵が投影されていました。



プールサイドでのダンス・パーティの様子です。



シアターでの公演で最も大規模な出し物が舞台劇「海への誓い」で6人の演者による歌と踊りのショーでした。石垣島出港後に20時半から上演の予定でしたが、海が荒れて船が揺れたため延期となり、帰りの航海中に行われました。



専属の女性歌手の公演が2回ありました。





最後の夜の「バイキング・フェアウェル」では、サービス要員として乗客と接した船員たちが壇上に登場して、喝采を浴びました。



バイキング・フェアウェルでは、専属のミュージシャンによる合同生演奏会が披露されました。日本語の歌もたくさん歌われましたが、やはり母国語で歌う歌の方が迫力があってよかったように思います。日本語の場合には、その正確さなどに気が向いてしまい、音楽が純粋には楽しめなくなりました。





船内には随所に本棚が設けられており、英語、中国語の本の他、日本語の書籍もたくさん置かれていました。本船の場合には、ゆっくりと読書をして過ごすのもお似合いかも。お気に入りの本を持ってきて、この本棚にそっと残して下船するといったシステムを取り入れると、本の数も増えていいかも。そんな図書室が、ちまたでも増えています。上の写真はエクスプローラーズ・ラウンジの2階部分の本棚で、下の写真はアトリウム1階のザ・リビングルームの一画のものです。